

地域連携だより

第40号

# Face to Face



役職等はすべて取材日時点のものです。

- ▶ 「地域連携だより Face to Face」は、主に医療職・介護職などの多職種向け情報紙です。地域の様々な情報が皆様に共有されることで、顔の見える関係構築や相互理解推進の一助となることを目指します。
- ▶ 地域連携だよりは、包括的なケアを担う皆様の取組みを広く一般にも周知するため、市ホームページで公開しています。

## 第2回釜石市地域ケア推進会議

2月26日、釜石情報交流センターを会場に、今年度2回目となる地域ケア推進会議を開催しました。当日は、多様な専門職で構成された委員のほか、オブザーバーと事務局を含む約30人が出席しました。

### 地域ケア推進会議の新たな進め方

これまで地域ケア推進会議は、市が地域課題の解決策を企画立案し、その内容について意見をいただくという形でしたが、今回から以下①～③の手順で実施することとしました。

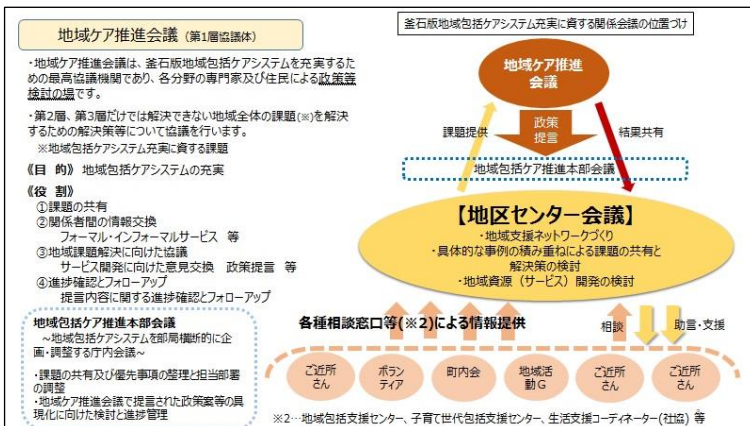
この会議のあり方や役割について、詳しくは図をご確認ください。

- ① **新規事例政策検討** … 具体的な事例を用いて、委員の方々の多様な視点から課題を捉える
- ② **政策提言** … ①で行った検討案を確認し、課題の解決策を検討・提案する
- ③ **進捗確認とフォローアップ** … ②の提案後のフォローアップまでをこの会議で実施する

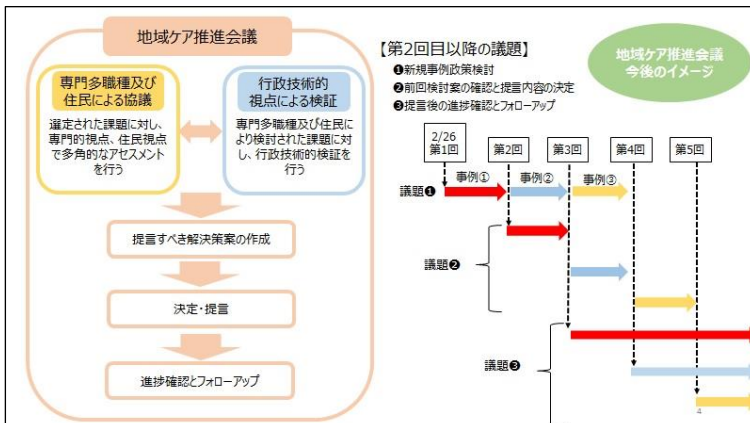
### 事例検討の内容

今回の事例検討では、(1)免許返納済みで通院の必要がある独居高齢者、(2)老老・認認介護状態だが「何も問題ない」とする高齢夫婦の2事例について、釜石市地域包括支援センター職員から事例紹介がありました。各委員は各々の専門性に基づき、予後予測や必要となるサポート等について意見しました。

今回の結果は事務局で集約し、「地域課題の解決策」として次回会議に提案するよう進めていきます。



一部オンライン形式の「ハイブリッド会議」を実施



会議に先立ち「地域包括ケア推進アドバイザー」でもある寺田・後藤両委員と市長らとの懇談会を開催

## 在宅医療と救急医療の連携を推進

チームかまいしでは、在宅医療、救急医療（病院、消防）、行政が協働する「チームかまいし在宅医療・救急医療連携推進事業」を実施しています。11月開催の厚生労働省「在宅医療・救急医療連携に関する調査・セミナー事業」への参加を皮切りに、次のとおり事業を実施してきました。

### チームかまいし在宅医療・救急医療連携推進事業「打合せ会」（令和3年1月29日）

11月に行ったグループワークで課題としてあげられた人生会議（ACP）やDNAR（蘇生措置拒否）等について、情報提供や意見交換を行い、認識の共有を図りました。

### 厚生労働省「在宅医療・救急医療連携セミナー第2部」を活用したセミナー受講（2月14日）

厚生労働省事業を活用し、先進事例を学んだほか、グループワークで連携推進の具体的な内容について話し合いました。その結果、当地域は比較的在宅医療が普及しており、DNARの患者の搬送が少ないことから、新たな枠組みを構築するのではなく、以下の取組みを行うこととしました。

- 今ある資源（いのちのきずなカプセル等）を活用する
- 各資源が持つ情報を関係者間で共有する流れを作る
- スムーズな在宅療養への移行を目指し病診連携を進める
- 人生会議について市民や専門職等に啓発を進める 等



### 消防とチームかまいしとの打合せ会（一次連携）（3月5日）

2月のセミナーの結果を報告し、連携に関する各々の事情について意見交換を行ったほか、最近の「在宅看取りを希望している患者・家族が救急車を呼んだ事例」について情報提供がありました。

人生の最終段階をより良いものにするためには、在宅医療や救急医療に直接関わる職種だけではなく、各職種がそれぞれの役割を活かし、地域全体で取り組むことが必要です。終末期において、人生会議等で本人の意見を尊重することと、スムーズな連携により各職種が無理なく対応できることの両立を目指して当事業を進めていきますので、ご協力をお願いいたします。



## 社会的リスクを抱える高齢者の支援体制に関する研究事業

東京大学高齢社会総合研究機構等と協働で実施する事業について、1月25日に第3回ワーキンググループを実施しました。今回は、市内東部地区の2事例について医療・介護・行政の多職種がアセスメントしたほか、事例を政策に繋げるための手法等について協議しました。

自立支援型のケアの必要性が高まる中、個別の事例からいかに地域課題を抽出し、有効な施策に繋げるのか、この共同事業で得た手法や考え方を活かしていきます。





## かまいしユニゾン 「ささえる事例検討会 in 釜石」

11月27日、釜石情報交流センター多目的集会室を会場に、かまいしユニゾンが主催する「ささえる事例検討会」が開催されました。

**かまいしユニゾン**…医療・介護の専門職による自主活動グループで、「交流や研修活動を通じて保健・医療・福祉の知識やモチベーションを向上させ、職能を十分に発揮することで、地域住民が安心して暮らせるまちづくりのお手伝いをする事」を目的に、平成30年から継続的に活動を行っています。

今回の研修会は、主任介護支援専門員更新研修受講要件の法定外研修として釜石市地域包括支援センターとの共催で行われ、会場とオンライン合わせて29人の専門職が参加しました。参加者は問題点や課題だけではなく「本人ができること・いいところ」等のポジティブな側面を挙げるワークを行い、前向きにケースと向き合う姿勢を学びました。



リモートを積極的に活用しています

## 交流サロン型サービス モデル事業 in 釜石

12月7日、青葉ビル研修室において、「交流サロン型サービス in 釜石」が開催されました。

**主催** 岩手県美容業生活衛生同業組合  
**目的** 地域コミュニティ維持に資するため、地域包括ケアの一環として生活衛生業による高齢者への生活支援サービスを行う  
※厚生労働省補助事業

当日は、県理容組合、美容業組合、中華料理組合、飲食業組合が参加し、アイスパ&耳マッサージやハンドマッサージ、家庭で簡単に作れる手作りチャッシュー、釜石“男めし”の作り方など、プロの技術を活かしたサービスを提供しました。参加者は講師に質問するなど熱心に耳を傾け、体験を楽しみました。

理容・美容や食事などの生活に密着した技術は、医療・介護とは異なるアプローチで住民の健康を支え、QOLを高めるものです。今後も地域包括ケアの担い手として皆さんの活動に注目していきます。



会話も楽しいハンドマッサージ

## エーザイ株式会社より指導箋等をご提供いただきました

釜石医師会・エーザイ株式会社・釜石市の3者は、平成28年に「認知症を地域で支えるまちづくり連携協定」を締結し、健康講座の共催等の活動を通じて、地域包括ケアのまちづくりに資する連携の取組みを進めています。

コロナ禍により最も物資が不足していた令和2年4~5月には、新型コロナウイルス感染症対策に関連して、マスクや抗菌スプレー等の物資をご寄贈いただきました。

また、集いの場の休止等により高齢者の閉じこもり増加が懸念されることから、フレイル予防に関する住民向け指導箋1,000部をご提供いただきました。現在は感染症拡大防止の観点から活用できる機会が少ない状況ですが、今後、介護予防教室等での活用を予定しています。



◆ クリニックの概要を教えてください。

医師1名、看護師2名、受付2名の5人が常勤するほか、視能訓練士1名が週半分勤務しています。

◆ どのような症状の方を診療対象としていますか。

メガネやコンタクトレンズ、低視力、緑内障など様々です。「なんでも診る」ことを基本として、土日でも診療するなど通院しやすい場所・時間にしています。

◆ これまでの活動について教えてください。

釜石に戻るまでの20年間は、仙台市の自院で診療しながら様々な学会で活動していました。また、西和賀さわうち病院では、月1回非常勤で診療しており、地域包括支援センターと協力して在宅医療も行っていました。

◆ 釜石でも在宅医療を行う予定はありますか。

考えてはいますが、仕組みが整わないと難しいと思います。コロナ禍ということもありオンライン診療も考えていますが、できれば最初はクリニックに来ていただき、しっかり評価したいです。

◆ 多職種にひとことお願いします！

これまで視覚障害のサポートネットワークに携わるなどしてきており、多職種の皆さんと関わるのは好きです。顔の見えるコミュニケーションを取れるよう、釜石でも仲間に入れてください。



Uターンで開業された佐渡院長



明るい雰囲気のある診察室にて

## 県立釜石病院の新たな体制について要望しました



12月11日、盛岡地区合同庁舎において、県立釜石病院の建て替え等に対する要望書を岩手県医療局長に手交しました。

この会には、野田釜石市長、平野大槌町長、小野共県議会議員、岩崎友一県議会議員らが出席し、釜石・大槌保健医療圏の現状や、病院の体制変更・医師不足等に対する住民の不安感などを訴えました。

今後も当圏域の将来を見据えた要望活動を続けていきます。

### 編集後記

3月は旅立ちの季節です。今年も多くの若者が巣立ちましたが、昨年から続く感染症対策で孤独を感じる人が増えているとの話も。ただでさえ不安な新生活、ワクチン接種やリモート活用など、様々な側面から安心な暮らしを支え、平穏を取り戻したいものです(N)

### 発行：在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号  
TEL：0193-55-4536 FAX：0193-22-6375  
【E-mail】[kea@city.kamaishi.iwate.jp](mailto:kea@city.kamaishi.iwate.jp)  
【HP】<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/category/bunya/tiikihoukatukea/zaitakuiryourenkei/>  
【FB】<https://www.facebook.com/teamkamaishi/>